

## 循環器疫学の役割とは？

### —近年の予防医学、健康科学の常識のゆらぎからみえてくること—

近年、これまで予防医学で常識と考えられていた基準や療法（指導）の見直しの動きが多くみられ、糖質や脂質摂取をめぐる食関連の議論（論争）が目立ってきている。2015年版の米国食事摂取基準（Dietary Guidelines for Americans）<sup>1</sup>では、コレステロールについて摂取の上限を設定しない方向が示された。また、飽和脂肪酸（saturated fatty acid, SFA）摂取については、飽和脂肪酸を多価不飽和脂肪酸（poly unsaturated fatty acid, PUFA）に置き換えることで冠動脈疾患（CHD）を予防できるとする考えが浸透しているが、2014年のChowdhuryらのメタアナリシス<sup>2</sup>などを受けて、PUFA全てにあてはまるものではなく、その質（中には予防的働くPUFAも存在する）を重視すべきであるという意見が出てきている。国際脂肪酸脂質学会の報告<sup>3</sup>では、CHDには色々なリスク因子があって複雑であり、一つの因子で説明できるようなものではないこと、さらにSFAには種類により様々な予防的な生理的作用があること、栄養摂取基準はfood-basedであるべきということが強調されている。これらの論争の背後には、1980年代からの総脂肪摂取量の減量に焦点を置いた取組みにより、バランスの取れた食事から糖分の多い食事へと移り、炭水化物の代謝特性やそれに関連し、食べる量そのものが増えて肥満問題が悪化したという批判がある。

このように、この数年疫学研究とくに栄養疫学への風当たりが強く、栄養疫学者による総説等では、栄養疫学の概念や研究方法の見直し、政策立案における栄養疫学研究の役割を問い直す報告が多くなっている<sup>4,5,6</sup>。総説の内容も、食事の行動的な側面から、薬物介入試験のパラダイムを用いることへの疑問視、食のphysiological effectsの多様性・複雑性から、相互作用や質を重視した研究の必要性を強調している。単一の栄養素に着目して何かの摂取を減らせば、何かは増えることから、food-basedのバランスや質を考えたエビデンスの発信が今後重要になってくると考えられる。

翻って、CHD中心に議論が進められている欧米の流れの中で、脳卒中発症が多く、さらには、その病型である脳出血と脳梗塞でリスクファクターに違いがみられ、高齢者のやせの問題が顕在化している本邦では、どのようなエビデンスが必要であるのだろうか。また、このような論争の中で、国民の健康につなげていくためにはどのような情報を届け、どのように政策へ結びつける努力をしないのか。本抄読会では国内循環器疫学研究の一つである日本動脈硬化縦断研究（JALS）のこれまでの経過と現在検討を進めている課題を紹介しながら考えてみたい。また、これまでの循環器疫学研究の枠組みで解決しにくい課題が非常に多いことから、並行して取り組んでいる研究についても紹介したい。

### 【参考文献】

1. U.S. Department of Health and Human Services and U.S. Department of Agriculture. 2015 – 2020 Dietary Guidelines for Americans. 8th Edition. December 2015. Available at <http://health.gov/dietaryguidelines/2015/guidelines/>.
2. Chowdhury R, Warnakula S, Kunutsor S, et al. Association of dietary, circulating, and supplement fatty acids with coronary risk. A systematic review and meta-analysis. *Ann Intern Med.* 2014;160:398-406
3. Nettleton JF, Legrand P, Mensink RP. ISSFAL 2014 Debate: It is time to update saturated fat recommendations. *Ann Nutr Metab.* 2015;66:104-8
4. Mozaffarian D. Dietary and policy priorities for cardiovascular disease, diabetes, and obesity. A comprehensive review. *Circulation.* 2016;133:187-225.
5. Satjia A, Willett WC, Hu FB. Understanding nutritional epidemiology and its role in policy. *Adv. Nutr.* 2015;6: 5-18
6. Jacobs DR and Tapsell LC. What an anticardiovascular diet should be in 2015. *Curr Opin Lipidol* 2015;26: 270-75